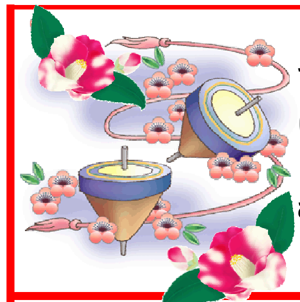


今年も早２月に入りました･･･二十四節季の「大寒」も過ぎてこれから春が近付いてくる時節ですが、ご当地では最も「降雪」を警戒する頃ですよね･･･先月は思ったほど降雪量はありませんでしたが、今月一杯が「山場」になりそうです。

問屋さんの話では今月からまた一斉に資材の「値上げ」があるとの事でしたが、むやみに「先行仕入」をする訳にもいきませんので頭の痛い事だらけで困惑してます。

景気の低迷から一時も早く市場経済に明るい兆しが戻ってくると有難いですよね･･･

瓦版 2月号

発行 ㈱カネマタ工務店
TEL 025-792-2560
FAX 025-792-7102
http://kanematak.com

今が旬 「ブリの濃厚トマト煮込み」

【材 料】

ブリ(切身)	4切(400g)	A 中濃ソース	大さじ4
玉ねぎ	1個	A コンソメ(固形)	2個
ブナシメジ	1パック	ニンニク(薄切)	2かけ分
A カットトマト缶	1缶	オリーブオイル	大さじ2
A 水	300ml	パセリ(微塵切)	適量

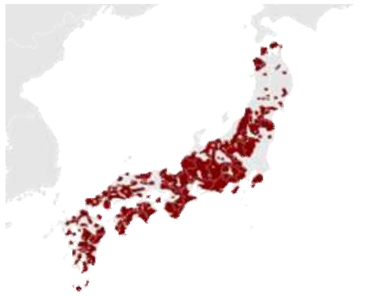
【作り方】 ※調理時間：約20分

1. ブリの切身はそれぞれ4等分のそぎ切りにし、玉ねぎは縦半分に切って薄切りにし、ブナシメジは石付を落とし小房に分ける。
2. フライパンにオリーブオイル・ニンニクを入れて熱し、香りが出たら玉ねぎ・ブナシメジを加えて炒める。Aを加え煮立ったらブリを加えて蓋をして弱めの中火で10分ほど煮る。
3. それぞれの器に盛り、その上にお好みでパセリを散らして完成です。

※材料の目安：4人分 エネルギー：362kcal タンパク質：24g 塩分：2.3g / 人

日本海側で多く捕れる今が「旬」の寒ブリ･･･定番の「ぶり大根」も美味しいですよね。

魚沼の自然･･･前から居たの「猿」？



「十二支」にも数えられる「猿」･･･近年ご当地でも目撃例が急増し加えてその農作物被害が深刻化して、道端の世間話にもその被害報告が度々上って来てます･･･

以前から居たのかどうか私には解りませんが、当集落の東にある橋の名称も「猿跳橋」と呼ばれてまして、これから考えると昔から居たんではないかと推測されます･･･

この「ニホンザル」･･･本州・四国・九州と周辺の島々、屋久島・種子島に生息し北限は下北半島までと、全猿の種では最も北まで分布しています･･･ただ、右の分布図のように白色の地域では目撃例がなく、茨木県では絶滅したと考えられています。

大きさは雄で頭胴長が53～60cm、雌で47～55cm程度で体重は雄6～18kg、雌6～14kg程度です。体毛は温暖地では短く薄く覆われ、寒冷地では長く密に覆われる傾向があります。また、寒冷地や中部山岳部に生息する個体群は、西日本の個体群より大型のものが多い傾向もあります･･･雄は「犬歯」が発達し噛まれると危険です。

生息環境は常緑広葉樹林(A)や落葉広葉樹林(B)で地上でも樹上でも活動します。群れは1群80㎢程の行動範囲で生活し、行動圏は(A)では狭く(B)では広くなる傾向があり、複数の異性が含まれる10～100頭以上の集団を形成する場合が多いようです。

食性は植物主体の雑食性で主に果実を食べますが、植物葉・花・種子・キノコ･･･動物性捕食として鳥類の卵、昆虫なども食べます･･･京都府の「嵐山」では192種類の食物を食べていたと言う報告例もあるほど何でも食べるようです。

人家近くの畑作物などは恰好な食物として狙われるのは頷けます･･･

「脱炭素発電」 地熱利用・NH3利用

脱炭素社会の実現に向け「環境省」が色々な施策を模索していますが中でも重要視したいのが「脱炭素発電」･･･太陽光・風力等は実績を伸ばしそこかしこで視られますが、天候の影響を受ける事が最大の難点で安定供給に問題をきたします･･･それを回避し安定的に稼働できる発電方法について「2例」ほど再度検証してみます。

1つ目は「地熱発電」です･･･これまでも数回紹介してみましたが、火山列島の我が国において有望視できる方法ではないかと思います。

火山付近に存在する「マグマ溜り」の熱で地下水が温められ、およそ200～350℃の熱水になります。この熱水が溜まっている場所を「貯留層」と呼び、ここに井戸を掘って汲上げ熱水を回収。これを更に「気水分離器」で蒸気と熱水に分けます･･･ここから高温蒸気だけを「発電タービン」に送り発電を行います。発電後の蒸気は「冷却塔(写真右側)」で冷やし、気水分離器で分離した熱水と混ぜられ「還元井」と呼ばれる別の井戸から再び地下に戻されます･･･このサイクルを繰り返す発電方法が「地熱発電」の原理です。我が国には2017年度末で65地点-85ユニットが稼働中で、発電端出力の合計は500,070kwとなってます。単ユニット当りでは現在、九州電力㈱の「八丁原発電所」の1･2号機の55,000kwが最大です。

原子力発電炉の1基当り100万kw超に比べると発電量は大きくありませんが、「安全・低環境リスク」を考えれば原子力発電炉を1基造るより、「地熱発電所」や「水力発電所」を100基造る方が絶対意義があると思いますけど･･･

※画像の福島県の「柳津西山発電所」は1ユニットで30,000kwの発電を行えます(2017年以前は60,000kwでした)

今回もう1つ紹介したい「発電方法」は「アンモニア(NH3)」を燃料とする発電で「混燃利用」と「燃料電池利用」があります。この物質は主に植物用の化学肥料として利用されていますが、化学式の通り窒素= 1+ 水素=3 で組成されています･･･2014年「日本」で、ガスタービン発電の燃料の30%にアンモニアを混ぜて燃焼させる事に成功しました･･･これが「混燃利用」で現在最も技術開発が進んでいる発電方法です。更に近年はアンモニアだけを燃料とする「専燃」も研究が進められています。

燃料電池としての利用は通常は水素と酸素の化学反応で生じるエネルギーで発電を行い電力を取り出す技術ですが、水素は運搬・貯蔵などが難しく扱いづらい事から、アンモニアを分解して水素を取出す研究・開発が進められています。燃料電池にアンモニアを利用できれば、発電時にCO_2は発生しませんし、水素に比べ運搬が容易でコストが掛からず安全もある程度緩和されます･･･ただ、アンモニアの生成時点で大量の電力を必要としますのでここを一考しないといけないのかな･･･

2月 如月 2023年

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
	一粒万倍日	節分	立春	一粒万倍日			上弦		一粒万倍日	建国記念の日	一粒万倍日		バレンタインデー	
大安	赤口	先勝	友引	先負	仏滅	大安	赤口	先勝	友引	先負	仏滅	大安	赤口	先勝
地鎮祭 上棟吉日		地鎮祭 上棟吉日	地鎮祭 上棟吉日	立案吉日		立案吉日		地鎮祭 上棟吉日	三隣亡	立案吉日		地鎮祭 上棟吉日		地鎮祭 上棟吉日

16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	1	2	3
木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
	一粒万倍日		雨水	朔			天皇誕生日	一粒万倍日			上弦		一粒万倍日		雛祭り
友引	先負	仏滅	大安	友引	先負	仏滅	大安	赤口	先勝	友引	先負	仏滅	大安	赤口	先勝
地鎮祭 上棟吉日	立案吉日		地鎮祭 上棟吉日	地鎮祭 上棟吉日	立案吉日	三隣亡	地鎮祭 上棟吉日		地鎮祭 上棟吉日	地鎮祭 上棟吉日	立案吉日		地鎮祭 上棟吉日		地鎮祭 上棟吉日